

ワークショップ「バルカン地域研究の新展開—民族文化の越境・接触・変化をめぐる多角的研究を目指して—」 プログラム

日時：2018年2月3日（土） 10:00—17:15
場所：東京大学本郷キャンパス文学部法文2号館2番大教室

10:00—10:15	開会・趣旨説明
第一部 基調講演「日本のバルカン地域研究の礎」 司会：岡野 要 (京都大学・院)	
10:15—11:00	東京大学名誉教授・城西国際大学特任教授 柴 宜弘 「日本におけるバルカン地域研究の発展と展望」
11:00—11:45	東京大学大学院人文社会系研究科教授 三谷 恵子 「V. ボギシッチの事績に見るバルカン地域研究の可能性」
11:45—12:30	東北学院大学文学部総合人文学科教授 鐸木 道剛 「セルビア近代アイコンからバルカン地域研究へ」
12:30—13:30	昼食・休憩 (1 時間)
第二部 研究報告 第一セクション「バルカン地域研究の新展開—理論と実践—」 司会：菅井 健太 (筑波大学)	
13:30—15:05	鈴木 健太 (東京外国語大学) 「21 世紀における「バルカン」—地域をめぐる概念と認識」 門間 卓也 (東京大学・院) 「戦間期クロアチア・ナショナリズムのバルカン概念を巡る政治性」 上畑 史 (日本学術振興会／国立民族学博物館) 「セルビアのターボフォーク／ポップフォーク：多元主義の実践としての音楽、文化、その変容」 村上 亮 (日本学術振興会／京都大学) 「ガヴリロ・プリンツィプ像の過去と現在—英雄／テロリストの二分法からの脱却に向けて」 【討論者】木村 真 (日本女子大学)
15:05—15:20	休憩 (15 分)
第二セクション「バルカンの民族文化の越境・接触・変化をめぐる諸問題」 司会：銚川 貴久 (東京大学・院)	
15:20—16:55	中澤 拓哉 (東京大学・院) 「変容するニエゴシュ—南スラヴ人地域におけるペタル 2 世像」 岡野 要 (京都大学・院) 「バルカンの特徴の越境—ヴォイヴォディナ・ルシン語における接続詞 da の使用をめぐる」 日高 翠 (日本学術振興会／東京藝術大学) 「中世後期バルカン地域の教会堂壁画—技法と材料」 菅井 健太 (筑波大学) 「バルカンにおける言語接触と変化—ドナウ川を渡ったブルガリア人移民のことばを中心に」 【討論者】山崎 信一 (東京大学)
16:55—17:15	ワークショップ総括・閉会